

フルハーネス型墜落制止用器具の特別教育受講報告

フィールド科学系部門 生物生産技術班 氏名 木原真司

1. はじめに（目的等）

毎年約 200 人の労働者が、墜落・転落災害で命を落としている。自分の担当業務の中で、高所に上がり作業をすることがあり、そのことが労働災害につながる恐れもある。そのため今回の特別教育を受講し、高所作業での災害を未然に防ぐことを目的とする。

2. 期間・場所

期間：令和 5 年 6 月 22 日

場所：志和教習所

3. 参加者等

20 名程度

4. 研修内容

作業に関する知識

墜落制止用器具（フルハーネス型のものに限る）に関する知識

労働災害の防止に関する知識

関係法令

墜落制止用器具の使用手法など

5. まとめと感想

高所作業の現場では、墜落を制止するための個人用保護具として、安全帯が何十年も前から使用されてきた。その一方で、国際規格では胴ベルト型は内臓の損傷、胸部の圧迫などによる危険性が指摘されており、労働安全衛生規則の改定により、2019 年 2 月より墜落制止用器具はフルハーネス型を原則とすることとなった。

講習では墜落制止用器具に関する知識、使用手法を学び、労働災害を防止するための知識について講義を受けた。

高所作業における危険性を十分に理解し、労働災害を起こさないよう努めたい。